

栃の木からの手紙

2020年 神無月 10月号



- 2日： 満月 旧 8月16日
- 8日： 寒露
- 17日： 新月 旧 9月1日
- 23日： 霜降
- 25日： 北見センター 収穫祭
- 31日： 満月 旧 9月15日

有機JASの畑で使用する苗は、有機的に育苗する必要がある。キャベツやレタスの種をポットやトレーに播いて育苗してから畑に移植する方法では、育苗に使用する土は、有機圃場の土を使っていました。でも、生育状態が芳しくありません。自分で育苗土を調整すれば良いのですがそれも出来ていません。たまたま和歌山の業者から送られて来た案内で有機認証の取れている育苗土に出会った事で、今年レタスやビーツの育苗を行い有機JASとして栽培。



ビーツは3/24・4/6・5/10の3回でセルトレー31枚。レタスは4/6・5/10・6/7の3回でセルトレー8枚に播種しました。使用した資材はゆうきくん3袋120%程で写真の資材が余り。



ビーツの育苗は塔立ちを防ぐ為に低温に注意が必要。

2020年 食用ビーツ 収穫量

面積	有機JAS 4a 9/30		慣行農法 8a 10/678	
	反収量	2000kg/反	反収量	2800kg/反
1kg 以上	120kg	15%	1340kg	59%
900g	30kg	24%		
800g	41kg	5%		
700g	52kg	7%		
600g	66kg	8%	130kg	6%
500g	99kg	12%	150kg	7%
400g	96kg	12%	140kg	6%
300g	80kg	10%	120kg	5%
200g	48kg	6%	80kg	4%
100g	18kg	2%	50kg	2%
外品	150kg	19%	180kg	7%
合計	800kg	100%	2270kg	100%

20201010 9月30日に有機ビーツを収穫して選別後慣行のビーツを10月上旬に収穫。ひと玉の重さ毎の収穫量を比較したものが左の表です。有機では小売りに適したサイズが多いのに対し慣行では、加工向けの大きなサイズが多くなっています。



反当たりの収穫量は有機が2トンに対し慣行は2.8トン。通常、ビーツの収穫時期は、8月と10月とされていますが、作物の状態を考慮して適時収穫する事で販売目的に合

ったサイズのビーツとなります。しかし他の作業との兼ね合いもあります。

作業は、播種から移植、収穫、選別の殆どが手作業となり販売先も少ないため今は面積を増やすわけにもいきません。加工販売の道も考えていますが、今は乾燥を防ぐ為におが屑と混ぜて大きなビニール袋やフレコンに入れて冷暗所で出荷を待っています。